

2018 コレクション展Ⅱ

2018年 6月8日 [金] — 7月31日 [火]



糸園和三郎《鳥と青年》1959年

糸園和三郎(1911-2001)が、大病に犯されていることを告知された直後に制作した作品です。絶望的な状況の中で、生と死を見つめる画家の内面が、象徴的に描き出されています。

内なるものを見つめて *Journey into the MIND*



河合誓徳《望郷》2008年

大分県立美術館 3階 コレクション展示室

前期 6月8日[金] - 7月3日[火]

後期 7月5日[木] - 7月31日[火]

○2018年7月4日(水)は展示替えのため休展

| 開館時間 | 10:00~19:00 ○金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

| 観覧料 | 一般 / 300(250)円 大学生・高校生 / 200(150)円

中学生以下は無料 ※ ()内は20名以上の団体料金

※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※障がい者手帳等をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください

| お問い合わせ | 大分県立美術館 Tel:097-533-4500

大分県立美術館

内なるものを見つめて



甲斐サチ《私の歳時記・夏》1983年

コレクション展Ⅱでは、人間の内面を様々な表した作品を通して、心に癒しをもたらす美術の魅力を紹介します。

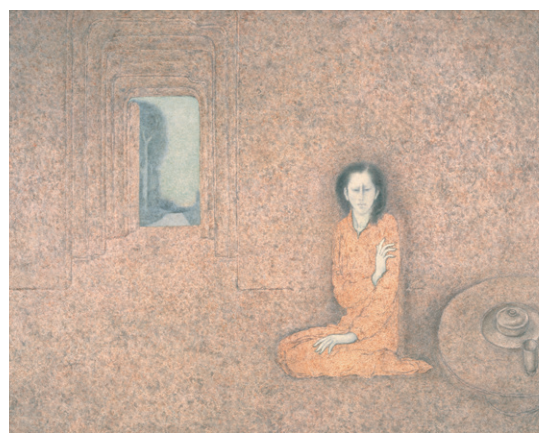
なぜ、今、内省的な作品が必要なのでしょう。

生活の中で人々は孤独や不安を人知れず抱えるもの。そうした心情は、画家にとって、重要な主題やモチーフとなってきました。様々な種類の芸術作品が、時代や場所を超えて人間の思想や感情を伝えています。そのような作品を鑑賞し、

作家の気持ちに寄り添うことは、私たちが自らの孤独を乗り越える契機となることもあるのではないのでしょうか。それと同時に、他者に共感する力や生きる強さ、勇気を得ることもあるでしょう。

今回は、高山辰雄や糸園和三郎ら大分にゆかりのある作家による内省的な絵画を中心に、情感豊かな作品の数々をお楽しみください。

Journey into the Mind



高山辰雄《部屋の中》1982年

日本画家・高山辰雄(1912-2007)は、自らの内面を深く見つめながら制作を重ねた作家です。こちらを凝視しながら部屋の片隅に一人坐る女性。右手で左腕を抑える仕草は何かを必死に耐えているようにも見えます。部屋は幾重もの壁によって外の世界から遮られていますが、奥の扉は開け放たれ、その先に一本の道が続いています。この謎めいた構成の中で高山が描き出そうとしたのは、自我と世界との複雑な関わりだったのかもしれませんが。

田能村竹田
《白衣大士図》(部分)
1829年(前期展示)



平野五岳
《玄瑛石図》
1861年(後期展示)



ギャラリートーク

会場 / 3階 コレクション展示室

※予約不要・要観覧券

6/10<日>・6/24<日>・7/8<日>・7/22<日>
|時間| 14:00-15:00

6/29<金>・7/27<金> |時間| 17:00-18:00

開催中の企画展

アート&デザインの大茶会

マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ

2018年6月15日<金>-7月22日<日>

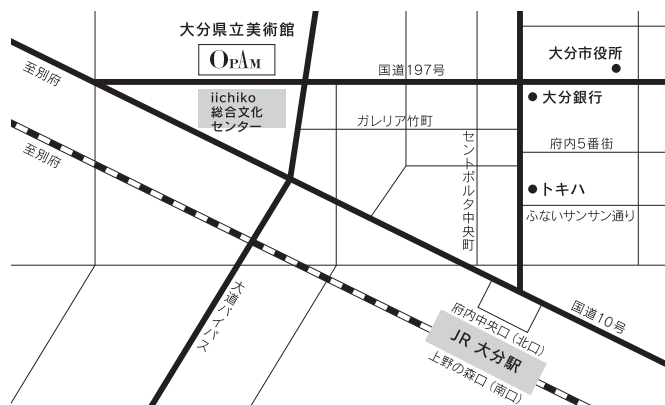
会場 / 1階 展示室A

人間・高山辰雄展

森羅万象への道

2018年7月7日<土>-8月19日<日>

会場 / 3階 展示室B



〒870-0036 大分市寿町2番1号 TEL:097-533-4500 FAX:097-533-4567
JR大分駅府内中央口(北口)から徒歩15分 / 大分ICから車で10分 <http://www.opam.jp>



OpAM 大分県立美術館
Oita Prefectural Art Museum